



オリーブ通信

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

2019年
11月号
2019.11.30発行
第217号

あたらしい
なかまを
しょうかい
します



ダオ ゴック ホン
(ベトナム)



ゲン レン トウアン
(ベトナム)



ディアン アリ プラ
(インドネシア)



ラマドニ
(インドネシア)



ジャン ポン シャー
(中国)

中川先生のへんてこ日本語 112 鉄板の方、熱くしてあります



レストランで鉄板料理を注文した。運んできた店員さんが、「鉄板の方、熱くしてありますのでご注意ください」というので、思わず立ち上がって、「なんでやねん?」と言いたくなった。ところがそこは日本語教師。発音から外国人だと分かったので、苦笑しながら「留学生?」と確認し、初級半ばあたりの習得がうまく進んでいないのだろうと判断し、教師根性から講義(抗議ではなく)しておいた。

つまり「窓があいている」「電気が消えている」などの自動詞+「ている」は、行為の結果が残存していることを表し、「窓があいている」「電気が消してある」などの他動詞+「てある」は、目的を持って行為を行っておくことを表す。

「風でドアがあいている」とはいえども、「風でドアがあけてある」とはいえない。反対に「暑いのでドアがあいている」とはいえないが、「暑いのでドアがあけてある」なら可能である。つまり「てある」には話し手の意志が関与することになる。

「鍵が壊れている」なら、自然の成り行きで「壊れた」のであるが、「かぎが壊してある」なら、すぐ二〇番に電話をかけなければならなくなる。

「熱くしてある」は、お客さんに危害を与えるために、意識的に「熱くした」ことになり、お客さんを怒らせてしまう。

今後レストランやコンビニなどで外国人の店員さんに接する機会もますます増えるであろう。その日本語に不可思議を感じることも多くなる。腹立たしく思う気持ちも分かるが、そこはあまり熱くならないでいたいものだ。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

「草津街あかり」でボランティアをした感想 張 意涵

大学の友達に誘われて、11月2日に草津街あかりのボランティア活動に参加しました。立命館大学では、授業の一環として、学生たちが草津街あかりの一部のイベント担当になっております。その学生さんがまつりのボランティア募集を校内で行っていました。私は友達と一緒にそれにエントリーして、当日はクイズラリーの手伝いに行きました。

草津街あかりはすごくきれいで、楽しいイベントでした。当日は夕方からやや冷えていましたが、あかりが照らしているところならば、人々の暖かく楽しい気持ち溢れていました。クイズラリーの参加状況もすごく賑やかなもので、2歳の可愛い赤子から少し年を取っているお爺さんまで参加いただきました。そして、どなたでも楽しく草津について勉強できるように、わざわざ子供用と大人用2種類の問題を用意して、特に大人用の問題では、歴史から地理まで幅広い知識が含まれていますので、私にとってすごくいい勉強になりました。



やや冷えている夜風の中で、同じ問題を何度も何度も繰り返して、ひたすら人の対応をするのが私の仕事ですが、当時は全然疲れを感じませんでした。なぜなら参加者の皆さん一人一人が頭を抱えてクイズに悩んで、最後たとえ答えが間違えましたがとしても楽しく笑っている姿がとても暖かい光景だから。皆さん一人一人感謝の言葉こそ最高のご褒美だと思います。

アフリカの中のアジア、マダガスカル



(レポート：遠藤)



首都アンタナナリボで3年間仕事をするようになった友人を訪ねて、8月にマダガスカルに行ってきました。

さて、マダガスカルはアフリカの右横にある島です。地図で見たら南アフリカから近そうなので、ついでにケープタウンの友だちのところにも寄ろうかと思って調べてみたら3000kmも離れていて断念しました。いやあ、アフリカ大陸はスケールが違う！

マダガスカルの面積も日本の1.6倍の大きさ。でも人口は2626万人(2018年)と少なめです。現在は焼畑をしすぎて森林が減った結果、人や動物が住める場所が減っています。



首都とその周辺に住んでいる人たちの先祖は5世紀頃にマレーやインドネシアから交易にやってきた商人たちなんだそうです。だからマダガスカル語はインドネシア語の系統に属しています(挨拶は「サラマ!」)。人々の顔つきも、ちょっと色が濃いアジア系。性格は穏やかで、大声で話したりしません(関西人の友人は「声が大きい」と同僚からよく言われるらしい)。毎日道路は大渋滞だけどイライラしたり、怒ったりしません。狭い道で対向車同士動けなくなったら話し合いをして、悪路では性能がいい車の方が脇に除けて道を譲ることも結構ありました。

友人によると物事をはっきり言うのを遠慮する文化があるので、かなり親しくなるまでなかなか本音を聞かせてくれないのだとか。なんだか昔の日本人みたいなのがあります。



また外国人だからと言ってあまりボラない。一部観光客相手の市場のボリようは酷いですが、マダガスカル人も行くような店なら、どこでも定価販売。そのかわり値引きもなし。ただし乗り物は、ちゃんと交渉しないとボラれます。バスもありますが、首都以外の街では、アジアの街角で見なれた三輪車が走っていて、ここでも「トゥクトゥク」と呼ばれています。ちなみに人力車は「プスプス」。

フランスに支配されていたので、町には美味しいクロワッサンを売るパン屋もあるのですが、一般の人たちの主食は米や麺。田舎に行けば米の段々畑があるし、緑の畑の中でゼブ牛(アジア由来のコブ牛)たちが悠々と草を食んでいたりと、見ていると自分がアフリカではなくアジアにいるような気がしてきます。

マダガスカルは途上国なのですが、公用語がフランス語なので今もフランス人が移住してきてレストランやカフェを営んでいます。なので食のレベルが高い! 脂ののったゼブ牛のコブの焼肉は大人気だし、海の近くに行けば新鮮なシーフードが食べられるし、フォアグラも生産しているし、マダガスカルは実はグルメの国だった!



↓アンタナナリボで人気のビュッフェランチが楽しめるレストラン



また素晴らしいのは、ペットボトルよりもガラス瓶が主流で、スーパーでもプラスチックバッグはくれないので皆ヤシの繊維で作った大きな買い物カゴを持って買物にくること。だから道端にプラスチックゴミが散乱したりしていません。こういうところをもっと世界にアピールしていったらいいのに…政府は自然環境を守るより金融を発展させたいようです。十年後ありきたりな残念な途上国になっていないよう祈るばかりです。



先月の活動 (10 月)

日本語教室 10/5 (M), 19, 26 (3 回)
 オリーブ遠足下見 10/13 (日) (内田、恩地、後藤)
 立命館大ボランティア体験受け入れ 10/19 (土)
 まちセン全体会 10/21 (月) (内田千)



今月の活動予定 (11 月)

日本語教室 11/2 (M), 16, 23 (3 回)
 オリーブバス遠足 11/24 (日)
 BNN 運営委員会
 まちセン施設部会 11/18 (月)

●日本語教室の (M) は定例ミーティング

● () 内は参加者または 参加予定者。敬称略



参加人数 (10 月)

	10/5	10/19	10/26	
生徒	45	38	42	
先生	23	23	24	



会員の動き (10 月)

〈退会〉 なし
 〈入会〉

新しく入会された先生です

チョウ イカン
 張 意涵さん

立命館大学経済学部の留学生です。学生
 コーディネーターの活動中でいろいろお
 世話になりました。これからもよろしく
 お願いします。



お知らせ

新しく入会した中溝といいです。
 中国語が少しわかります。
 旅行が好きで色々な所に行きます。



日本語って、
 面白い

入場無料
 事前申込不要

日 時 12月20日 (金) 15:40~17:10
 会 場 京都外国語大学 171教室
 講 師 金田一 秀穂氏 (杏林大学外国語学部教授)

◆ 2019年度京都外国語大学大学院主催 第1回公開講演会 ◆

編集後記:

気づけば12月も目前。1年が経つのは早いですね。「師走」の名の通り忙しさが増すことを思うと、お知らせ欄にある金田一さんの講演会に行く時間があるのだろうか、心配になってしまいます。(y g)